



3月ですが、びっくりするようなことが次々と起こっています！みなさんはお元気ですか？元気な方は健康を維持するように生活してね。調子が悪い方は、一日も早く元気になりますように！ポーポキは4本の手？足？を繰り返しよく洗っています。あなたも洗ってくださいね！

Popoki's Hot News!



ぼくなら HUG
できるよ！

Coming up!

4.10 ポーポキ友情物語活動 in 大槌&大船渡 報告会
神戸学生青年センター 18:00~20:00

6.21 灘チャレンジ！都賀川公園 10:00~16:00

*新型コロナウイルス拡大のため、延期・中止になる可能性があるのでは、近くになったらFBなどをご確認ください



「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのなおこにゃんは、次の「一言の平和」を送ってくれました。「迎えてくれる人がいるって素晴らしい。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？

ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

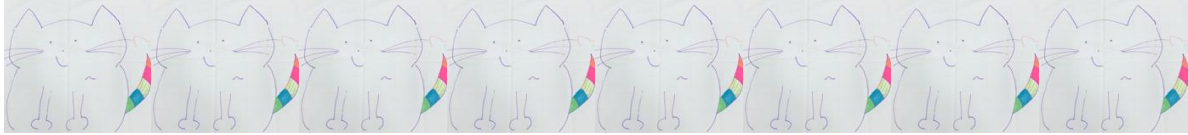
3月は卒業式の季節
「じゃね!」「ありがとう!」「気を付けて!」の季節
学校、仕事、生活
様々な新しい始まりの準備の季節
これは、終わろうとしている方のために
そして、新しく生まろうとしている方のためにも

私たちはみんな、ここまで来られました
だから、新しい始まりも終わりもない
あなたのためにも



ポーポキ友情物語を撮影する!

3月8日に一日かけて、ポーポキ友情物語の布を撮影しました。保存とデジタルデータとして使えるようにすることが目的です。以下は、参加したポーポキの友だちからのレポートです。



ポーポキと友情の物語

エマニュエルにゃん (訳：やこにゃん)

平和は、笑顔やハグから始まると言われます。カルカッタのマザー・テレサはこう言っています。「あなたが世界を変えたいのなら、家に帰ってあなたの家族を愛しなさい」。私はこれに少しくっつけ加えたいです。「平和で幸せな世界を見たいならば、アイスクリームを売りに出かけて行ったらよいでしょう、特に夏の季節にね」。ポーポキ友情物語の布は、だれかのために生き、だれかのためになにかを犠牲にしなければ人生とは言えないということを教えてくれます。プロジェクトに参加して、人々の気持ちを表現している様々なアートやデザインで、どのようにして友情物語の布がいっぱいになっているのかを鑑賞でき、とても興味深く光栄に思いました。それは、私にとって、みんなが21世紀にこうあってほしいと願っているある特別な種類の平和、思いやり、インクルージョン(包摂)をポーポキが象徴しているということが分かった素晴らしい時間でもありました。

50枚ほどの布がそれぞれ壁に貼られたのですが、その一枚一枚が平和のメッセージを伝えるものです。それらの色とりどりで美しい絵は、アートという言葉を経由して、場所や宗教やジェンダーや人種を越えて、寛容の精神を持ち、それぞれの差異をお互いに認め合い、一つに結びつくというメッセージを雄弁に物語ります。調和と平和がこの世界に広がっていくようにと、神様がポーポキをお創りになったのに違いありません。私が思うに、地球上のすべてのことには、はっきり定められた目的があります。ろにゃんはポーポキと呼ばれる「架け橋」を見出したのです。では重要な問いとして、どのようにして私たちはポーポキが使命を果たせるようにすることができるのでしょうか。ポーポキの仲間たちには、より平和でインクルーシブな世界に到達するために、北の果てから西洋まで、東から南半球まで、共通の課題について声を上げていくという大きな務めがあるのです。

ポーポキ友情物語の布は冒険の旅を続けていくに違いありません。それぞれのポーポキの仲間たちがひとつのことにたどりつき、ひとつのことを教えるのです。そのようにして、私たちはだれもが最善で人生において偉大なことを達成できる状態にあるような平和な世界を体感するのです。まだ遅くはありません、一緒に「違いを作る (make a difference)」ことを誓いましょう。最後にポーポキと仲間たちへ私のメッセージを送ります。「今日私たちがよいことをしても、明日には人々はたいていそれを忘れてしまいます。それでも私たちはよいことをし続けるべきです。私たちは悲惨さと悲しみに満ちた不正義のはびこる世界で生きています。それでも私たちは幸せであるべきです」。ポーポキとろにゃんとチームに恵みあれ！



ポーポキ友情物語活動@東北報告 (2020年2月8日～10日) パート1

* ポーポキと6人の仲間は岩手県の大槌町(2月8日～9日)と大船渡市(2月10日)でポーポキ活動をするために訪問しました。今月号に一日目の報告を載せ、残りの2つ日間の報告は4月号の「ポーポキ通信」に掲載します。

2020年2月8日

報告 なおこにゃん、ローレンにゃん

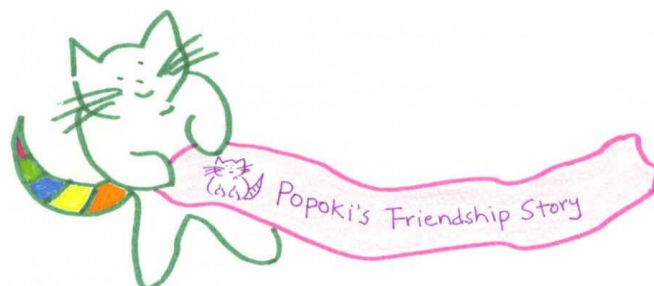
一日の流れ

- 8:00 大槌町に到着、伊藤さんによる大槌町の紹介を聞く。
- 9:00 伊藤さんによる大槌町案内。
- 13:00 図書館でよみきかせ
- 15:00 伊藤さんの短めの町案内

この日は大槌町滞在初日でした。到着してから、写真家の伊藤陽子さんが来られて、2011年に大槌町を襲った津波についての短編のドキュメンタリーを見せてくださいました。その後9時半ごろから、伊藤さんに大槌町を案内していただきました。案内では、様々な視点から、大槌町を見ることができました。2011年に比べ、大きく復興しているとはいえ、何か欠けているように感じました。

伊藤さんは、津波がいかに高かったかを様々な方法で強調されていました。実際に津波が家や電信柱などのどのくらいまでに達したのかを見せてくださいました。また、震災後どれほど高くかさ上げされたのか、津波が町のどこまで来て、今住んではいけない地域はどこなのかも話してくださいました。伊藤さんは、特に次の世代の人たちに、いかに津波が高く、恐ろしかったのか、津波からどう命を守るかを伝えたいと繰り返し話されました。

短い休憩の後、おしゃっちの図書館でよみきかせを行いました。中国語や英語などの様々な言語でよみきかせをしました。子どもたちはみな、よみきかせの時間を楽しんでくれているように感じ、嬉しく思いました。子どもたちは言葉の音を楽しんでいるように見えました。それは、私たちにとっても、有意義な経験となったといえるでしょう。また、子どもたちの反応が活動のモチベーションになることを実際に体感する良い経験でした。そして、よみきかせの後に、2011年の震災の展示を見に行きました。展示をみて、震災による心の痛みが完全に癒えることはないと思いますが、その痛みを軽くするために新しい記憶を作り上げていくことはできるのではと思いました。





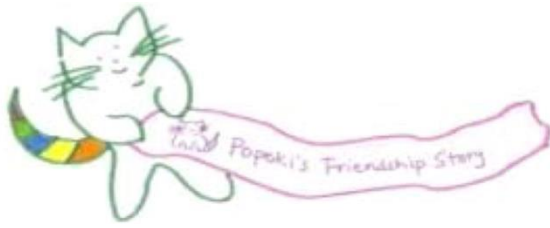
非居住地域(奥)と居住地域(手前)



津波が来た時に人々が逃げた高台からの景色



建設中の防波堤



Popoki's Interview

大槌町で出会った方々にインタビュー！

今回は2月に訪問した大槌町にて、お二人の方にインタビューを行いました。一人目は、大槌町国際交流協会代表の内金崎みつ子さん、二人目は大槌町役場職員の石井満さんです。大槌町で暮らす方々のお声をぜひ聞いてみて下さい。聞き手は、なぎさにゃんとろーれんにゃんです。

◆ 大槌町国際交流協会代表 内金崎みつ子さん

内金崎さんは、故郷の大槌を離れ、東京や京都などで仕事したのち、結婚を機に大槌町に再び戻ってこられました。

Q. 大槌町国際交流協会では、どんなことをしているのですか？

A. 今回、ポーポキピースプロジェクトと行ったような交流プログラムの開催や、姉妹都市であるアメリカ、カリフォルニア州のフォートブラッグ市との交流事業を行なっています。

Q. フォートブラッグ市との交流事業とは、どのようなものなのでしょうか？

A. フォートブラッグ市とは、2001年から大槌町と姉妹都市になりました。1997年の「豊かな海づくり大会」の大槌町での開催にあたり、大槌町と同じ緯度に位置するフォートブラッグから招待客を招いたことが、姉妹都市としての交流を始めたきっかけです。その後、大槌町の高校生をフォートブラッグに送ったり、フォートブラッグからも生徒たちが大槌町にやってきましたり、交換留学を行うようになりました。フォートブラッグからは、子どもたちだけでなく彼らの保護者も大槌町にやってきましたことに驚きました。

Q. フォートブラッグの人たちは、大槌町に来てどんな印象を持っていたのですか？

A. 彼らは目の前に緑がある、つまり大槌町が自然に囲まれていることに驚いていました。他にも、浪板海岸（大槌町吉里吉里にある海岸）が遠浅だったことなど。私たちにとって当たり前であることが、彼らにとってはそうではなかったのです。

Q. フォートブラッグ市以外にも、大槌町には外国の方々はこられるのですか？

A. 最近では、漁業関連の仕事をしているアジアからの労働者の方がいます。しかし、彼らとの交流などは現時点では行なっていません。将来的にはそのような方々との交流プログラムをしたいと考えています。

Q. オリンピック・パラリンピックにおける台湾ホストタウンについて教えてください。

A. ホストタウンのことは最近聞きました。台湾は震災の時に大槌町に寄付をして下さり、以前から何か恩返しをしたいという話がありました。大槌町の役場が開かれて130周年を記念する式典には、台湾の人たちがわざわざお祝いに来てくれました。



◆ 大槌町役場職員 石井満さん

大槌町出身の石井さんは、高校卒業後、東京で働き始めました。2011年の震災の後、家族とともに大槌に戻り、現在は町の復興のために大槌町役場で働かれています。

Q. なぜ大槌に再び戻ることを決意したのですか？

A. 震災が起こった際、私の母は一人で大槌に住んでいました。彼女の状況を心配し、震災が起きた翌日、私は大槌に戻ってきました。幸いにも私の家族はみんな無事でしたが、町の様子はとてもひどいものでした。その様子を見て、この町のために頑張ることが自分の義務であると感じました。私は東京での仕事を辞め、家族とともに2014年に大槌に戻ってきました。

Q. もし震災がなくても、大槌に戻ってきていましたか？

A. 正直に言うと、戻っていないと思います。大槌の若い世代には、違う町や外国へ行くように言うでしょう。多くのものを見れば、学ぶこともより一層増えます。また、故郷のために一度でも何かを頑張ることができれば、その後いつでもそうすることはできると信じています。

Q. 震災が起きて今年で9年になりますが、今の大槌の状況をどのように表現しますか？

A. 今の大槌における最大の課題は、住民の高齢化と人口流出です。現在役場では、外国人、特にベトナム、インドネシア、フィリピンの人たちが大槌での仕事に興味を持ってもらえるように、またもっと多くの人に大槌に残ってもらうために、外国の技術を大槌で紹介するなどの様々なことを模索中です。しかし、現時点ではそのようなプログラムは検討段階です。



大槌町国際交流協会とポーポキ・ピース・プロジェクトが一緒に行ったイベント。ろーれんにゃんが台湾について紹介してくれました。



浪板海岸の夕暮れ。震災の際には、ここに20メートル以上の津波が押し寄せたそうです。

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 143

今月のテーマは、手を洗いましょう！



1. まず、いつものように、美しく座りましょう。
 2. では、立ちましょう。手はとともきれいにする必要があります。背をまっすぐ伸ばして、腕をひじでまげながら、片手のひらでもう一本の手の甲を洗う動きをしてから、手を入れ替えましょう。腕は肩から動かし、ひじをうしろへ引っ張ることによってストレッチも兼ねる！
 3. 次は、指を広げましょう。腕は上記2と同じ動きで、今度は片手の指をもう一本の手の指に入れたりする。
 4. 最後に、腕を広げましょう。上記2と3を繰り返しましょう。物足りない？前かがみにしてから、身体の後ろで手を洗ってみてください！
 5. できてもできなくてもがんばりましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！
- お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？



次回のポー会： 3月31日@灘薬剤師会 *部屋は十分に換気ができ、大きなテーブルを囲みますので、距離をとることもできます。でもオンラインにするかもしれません。

4.10 ポーポキ友情物語活動 in 大槌&大船渡 報告会 18:00~20:00 学生青年センター

6.21 灘チャレンジ！10:00~16:00@都賀川公園。ポーポキは模擬店、展示を開催する予定。

7.11 ポーポキ@子どもの里！午前中の予定。

* コロナウイルス感染拡大を避けるため、延期・中止となる場合もあります。近くになりましたら、ご確認ください！

ポーポキの友だちからのおすすめの絵本

『りょうくんのすすむみち—学校に行けない君たちへ—』作・絵 かねしろ みゆき、学研 2019年。
大槌町 『生きる証 岩手県大槌町 東日本大震災記録誌』監修:大槌町教育委員会、ほか。2019.7。

Popoki in Print ポーポキ通信のバックナンバー<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- アレキサンダー&桂木 「被災体験後「今」を表現する：絵から読み取れる被災ナラティブ」国際協力論集 27(2) 2020.2 pp.17-32. http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/detail
- 「ポーポキのミニ平和映画祭」「こくしのみど52」『神戸青年・Kobe YMCA News』No.652 2017.7-8
- ESD Digital Archives, Kansai Council of Organizations for International Exchange <http://www.interpeople.or.jp>
- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に9条がある」NO:66 2012年5月12日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing” (Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なにに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第19号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なにに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第2号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なにに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第35号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なにに色? ポーポキのピース・ブック2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第2弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなにに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇宙賀佳代子さんがラジオ番組で紹介していただきました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組。(リンクは現在無効)
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10; Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全30条 イラストで表現 地元ゆかり6名がパネル制作」 2008.10.8. 10





私にとってポーポキ

アスタにゃん

Translated by: 齊藤規乃

最近、私は悲しく、世界中で起きている全てのことを心配しています。コロナウイルスのパンデミックにより、私の住む町ではパニックが広まり、食料や生活必需品(マスクや手の消毒液、トイレットペーパー、ペーパータオルだけでなく)が不足しています。町の一部の人たちは、子どもがおらず、妊娠していなくとも、おむつやおしり拭き、粉ミルク、離乳食を買い込んでいます。こうした一部の人々の買い溜めが、本当の危機をもたらしています。このようなパンデミックや物が不足した危機の中で出産し、息子を迎えることに不安を感じています。

私の兄と義姉が、私たち(夫のコール、そして犬のゾーイ)と同様にアメリカに住んでいることを嬉しく思いますが、ネパールに残っている両親の事が心配です。ネパールでの出入国は、国内に住む人々の命を危険に晒すリスクを防ぐ為に封鎖されていますが、ネパールのような陸地に囲まれた国では、それ自体が危機です。ネパールは生存の為、特にインドや中国といった近隣諸国との貿易やそうした国々からの輸入に頼らざるを得ません。外部からのモノやサービス、人の流入がなければ、ネパール国内の経済や人々の活動は厳しく制限され、正常に機能しなくなります。個人的には、もしこの状況が良くならなければ、両親が6月にアメリカにいる私たちを訪れることが出来ないだろうと特に心配をしています。それは、彼らにとって初めての孫である、私の息子の出産に立ち会えないことを意味しています。

この頃は、ニュースやインターネット、電話での会話や自主的隔離など、私を失望させるものが沢山あります。こうした事が起こっている一方で、私にはずっと側にいてくれる犬のゾーイとポーポキという仲間がいます。彼らは、より良い日が来る事を願う私の希望の光です。



ご協力お願いいたします！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10か国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なされたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)



<http://popoki.cruisejapan.com>

郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!